

Technical Support Appliance 更新履歴

TSA 2.7.0.0

August, 2020

IBM Technical Support Appliance バージョン 2.7.0.0 には内部コンポーネントのさまざまな改善が含まれています。このため、

特に v2.5.0.0 より前のインストールでは、更新処理時にリブートが複数回必要になる場合があります。更新前に最近のバックアップを取っておくことをお勧めします。手順については、「管理」メニューの「バックアップとリストア」オプションを参照してください。

- Technical Support Appliance ユーザー・インターフェースの複数言語サポート、および以下の言語でのデータ・サポート：
 - ドイツ語
 - フランス語
 - イタリア語
 - スペイン語
 - ブラジル・ポルトガル語
 - 日本語
 - 中国語 (簡体字)
 - 中国語 (繁体字)
- TSA グローバル SSH PKI キーのサポートの削除
- TSA ネットワーク構成プロセスの改善
- IBM コネクティビティ・ページの処理の改善
- VMware vCenter Server および ESXi ディスカバリーの改善：
 - vCenter を介した ESXi からの CIM 情報の収集
 - HTTP リダイレクトを処理するコードの更新
- IT デバイス・ディスカバリー：
 - IBM TS7700 テープ・ライブラリー・ディスカバリーの修正
 - IBM TS4500 テープ・ライブラリーの資料の更新
- 内部アプライアンスのセキュリティー強化
- その他の内部アプライアンスの更新と修正

TSA 2.6.0.0

2020 年 4 月

IBM Technical Support Appliance バージョン 2.6.0.0 には内部コンポーネントのさまざまな改善が含まれています。そのために、特に v2.5.0.0 より前のインストールでは、更新処理時にリブートが複数回必要になる場合があります。更新前に最近のバックアップを取っておくことをお勧めします。手順については、「管理」メニューの「バックアップとリストア」オプションを参照してください。

- 新機能: セットアップ・ウィザード → TSA は、セットアップ・ウィザードのファスト・パスを使用して開始し、TSA の構成を最小限のカスタマイズで迅速かつ簡単に完了できるようになりました
- 新機能: VMware Dynamic Scope Discovery → ユーザーは VMware 動的スコープを定義して、VMware vCenter サーバー、ESXi、管理対象の x86 Linux および Windows 仮想マシンから、詳細なデバイス情報をより簡単に収集できるようになりました。この時間節約を可能にする機能により、ユーザーは新しいスコープ・セットを構成することなく、管理対象仮想マシンを自動的に検出および照会できます。構成方法については、「Technical Support Appliance セットアップ・ガイド」の第 5 章にある『VMware 動的スコープ』のセクションを参照してください。
- 新機能: データ・スナップショット → ユーザーは、収集した未加工で不定形式のデータを IBM に送信する前に、そのローカル・コピーを生成して保存することができます。
- IBM POWER Systems HMC 動的スコープの機能を拡張 (SSH 鍵を使用するオプションを含む)
- ユーザー/グループの管理機能を改善
- 内部アプライアンスのセキュリティー強化
- その他の内部アプライアンスの更新と修正

TSA 2.5.1.0

2020 年 1 月

- IT デバイス・ディスカバリー:
 - 拡張: IBM FlashSystem 900 の最新のファームウェア・バージョンのサポート
 - 拡張: VMware vCenter Server および ESXi の最新バージョンのサポートを更新
- TSA が HMC とその管理対象 LPAR の両方を直接ディスカバリーするように構成されている場合に、IBM POWER System LPAR が正しく表示されない問題を修正
- VMware vCenter Server および ESXi のディスカバリー機能が HTTP(s) リダイレクトをサポートするように改善
- 内部アプライアンスのセキュリティー強化
- その他の内部アプライアンスの更新と修正

TSA 2.5.0.0

2019 年 9 月

TSA バージョン 2.5.0.0 には内部コンポーネントのさまざまな改善が含まれています。そのために、特に 2.4.0.0 より前のインストールでは、更新処理時にリポートが複数回必要になる場合があります。いつものように、更新前に最近のバックアップを取っておくことをお勧めします。手順については、「管理」メニューの「バックアップとリストア」オプションを参照してください。

- IT デバイス・ディスカバリー:
 - 新: Palo Alto ネットワーク・デバイス
 - IBM POWER HMC と LPAR の関係を詳細化
 - 「HMC 動的スコープ」機能を拡張 (SSH 鍵の使用のオプションを含む)
- TSA デフォルト管理者 (admin) のパスワードのリセットを簡素化

- カスタム証明書をデプロイするプロセスを改善
- 資格情報リストに「認証タイプ」が表示されるようになり、確認が簡単になりました
- 大規模スコープ・セットに関するガイダンス/警告
- 内部アプライアンスのセキュリティー強化
- その他の内部アプライアンスの更新と修正

TSA 2.4.0.0

2019年2月

- IBM Client Insights Portal (<https://clientinsightsportal.ibm.com>) から TSA レポートをダウンロードするには、TSA の「登録」ページで IBMid を関連付けてください。IBMid を登録するには <https://www.ibm.com/account> に移動してください。
- 新規インストール・オプション: 既にサポートされている VMware プラットフォームに加えて、Microsoft Hyper-V 上にも Technical Support Appliance をインストールできるようになりました。TSA のコード・パッケージと資料をダウンロードするには、IBM Fix Central (<http://ibm.biz/TSAImageFixCentral>) にアクセスしてください。
- ハードウェア・インベントリー・ディスカバリーを拡張しました。
 - テープ・ソリューションの IBM TS7700 ファミリー
 - Check Point ネットワーク・デバイス
 - Windows Remote Management (WinRM) を使用した Windows システムのディスカバリー
 - Hardware Management Console を介した IBM Power Systems 論理区画に関する動的ディスカバリー
 - Juniper Networks 親子関係のディスカバリーを改善
- 内部アプライアンスのセキュリティー強化
- その他の内部アプライアンスの更新と修正

TSA 2.3.0.1

2018年6

月

- 内部アプライアンスの更新と修正
- IBM TS35xx テープ・ライブラリー・ディスカバリーの修正

TSA 2.3.0.0

2018年5月

- ハードウェア・インベントリー・ディスカバリーを拡張しました。
 - F5 BIG-IP デバイスのディスカバリー
 - 「padmin」資格情報なしの VIOS インベントリー
 - Wincor Nixdorf ATM に関する追加のインベントリー情報
 - Juniper Network デバイスに関する追加のインベントリー情報

- VMware vCenter ライセンス情報をディスカバーする機能
- 内部アプライアンスのセキュリティー強化
- その他の内部アプライアンスの更新と修正

TSA 2.2.0.0

2017年12月

- ハードウェア・インベントリー・ディスカバリーを拡張しました。
 - IBM TS4500 テープ・ライブラリー
 - NetApp Data ONTAP 7-Mode
 - Fortinet FortiGate ファイアウォール
 - IBM FlashSystem A9000 バージョン 12 のサポートを追加
 - Juniper Networks デバイスに関するデータ収集を拡張
 - Integrated Lights Out Manager (ILOM) を介した Oracle サーバー
- ディスカバリー・スケジュールを改善：個々のスコープ・セット・レベルで実行するようにカスタマイズ・スケジュールを作成
- セキュリティー強化：SSH バージョン 2 をサポート（SSHv2 がサポート/構成されていない場合は SSHv1 にフェイルオーバー）
- その他の内部アプライアンスの更新と修正

TSA 2.1.0.0

2017年8月

- セキュリティーの強化：
 - Power Systems - LPAR 上でスクリプトを実行するのではなくリモートからコマンドを呼び出すようにセンサー・ロジックを改善

この機能拡張を使用するためには、ユーザーはエンドポイントで sudo 構成を更新して、必要最小限の権限があることを示す必要があります。手順については、最新の構成アシスタント・ガイドの『**IBM Power Systems**』→『**AIX / Linux on Power**』のセクションを参照してください。
- Power Systems デバイスで発生することがある不完全なデータ収集を解決
- フォルダーでグループ化されたデータ・センターをサポートするための VMware vCenter Server センサーの改善
- その他の内部の更新と修正

TSA 2.0.0.0

2017年6月

- 現行性、スケーラビリティ、セキュリティー、拡張性のためのアプライアンス・ディスカバリー・エンジンと内部コンポーネントのアップグレード
- パフォーマンスと使いやすさの向上、および TLS 1.2 接続のサポート追加のためのユーザー・インターフェースの拡張

- ユーザー・インターフェースを簡素化するための、標準の資格情報とスコープ・セット定義への拡張
ストレージ・デバイス定義の統合
- セキュリティー強化のための、HMC、VIOS、IVM、Linux、AIX、Solaris、および IBMi デバイスのディスカバリー時の SSH バージョン 2 のサポート
- セキュリティーと使いやすさの向上のための、HMC、VIOS、IVM、Linux、AIX、Solaris、および SVC/V7000 ファミリーの SSH 鍵のサポート
- 信頼性向上のための IBM への接続の機能強化
 - 接続テストを拡張
 - IBM への接続にポート 443 / HTTPS のみを使用するオプションを使用可能化

TSA 1.7.3.1

2016 年 12 月 14 日

- 内部アプライアンスの更新と修正

TSA 1.7.3.0

2016 年 11 月 17 日

- ハードウェア・インベントリー・ディスカバリー：
 - 新規デバイス・タイプを追加：Wincor Nixdorf ATM マシン。
 - SMI-S プロバイダーを介した EMC デバイスのディスカバリーを改善するための、Service Location Protocol (SLP) の使用を有効/無効にするオプション
 - 管理対象のハードウェアと仮想マシンのディスカバリーを加速するための VMware vCenter Server センサーの改善
 - IBM FlashSystem v9000 デバイスをより正確にディスカバリーするための改善
 - 旧バージョンの IBM Flex System Manager のサポート
- セキュリティーと安定性の改善：
 - サイズと帯域幅使用量を小さくするために送信圧縮を改善
 - 送信エラーまたはネットワーク・エラーが発生した場合の自動再試行
 - IBM Power Systems LPAR ディスカバリーに関するエラーを修正
 - その他のセキュリティー修正と機能拡張
- 使いやすさの向上：
 - 管理者パスワード再設定要求のための IBM サポート窓口の情報を追加
 - データベース再構築後のスコープの編集に関するエラーを修正

TSA 1.7.2.3

2016 年 8 月

- ハードウェア・インベントリー・ディスカバリーを拡張しました。
 - HP Onboard Administrator を介した HP BladeSystem エンクロージャーの情報

- VMware ESXi ハイパーバイザーを介した Brocade ホスト・バス・アダプターの情報。
(これは、TSA 1.7.2.2 で導入された Emulex および QLogic HBA ディスカバリーに加えられたものです)
- VMware ESXi ハイパーバイザーを介した他のアダプター・タイプ (つまり、イーサネットや USB など)。(これは、TSA 1.7.2.2 で導入されたスタンドアロンの x86 Windows サーバーおよび Linux サーバーのアダプター情報に加えられたものです)
- Flex Systems 内の Chassis Management Module (CMM) と Lenovo / IBM BladeCenter 内の Advanced Management Module (AMM) の場所情報
- 統合管理モジュール (IMM) を介してディスカバリーされた場合の Lenovo / IBM x86 サーバーのインベントリ解析を改善

TSA 1.7.2.2

2016 年 5 月 20

日

- ストレージ・エリア・ネットワーク・トポロジーの拡張:
 - VMware ディスカバリー (vCenter および ESXi) を介した Worldwide Port Name (WWPN) と World-Wide Node Name (WWNN)
 - EMC、HP、および IBM ストレージ・システムの直接ディスカバリーを介したホストの WWPN と WWNN
 - VMware ESXi ハイパーバイザーを実行している x86 と、スタンドアロンの Windows および Linux システムのホスト・バス・アダプター (HBA) 情報
- ハードウェア・インベントリ・ディスカバリーを拡張しました。
 - x86 上で稼働するスタンドアロンの Windows および Linux の他のアダプター・タイプ (つまり、イーサネットや USB など) のインベントリ・ディスカバリー。TSA レポートにこのアダプター情報を表示する機能は、6 月に完成する予定です。(注: ESXi ハイパーバイザー x86 構成の他のアダプター・タイプのディスカバリーは、アプライアンスとレポートの将来のリリースに含められます)
 - EMC Data Domain システム
 - IBM FlashSystem V9000
 - 統合管理モジュール (IMM) を介してディスカバリーされる IBM / Lenovo System X ファームウェア・レベル情報
 - Access Gateway モードの Brocade デバイス
 - マルチキャスト使用不可の環境での EMC SMI-S プロバイダーの検出
 - AMM、CMM、FSM を介してディスカバリーされた場合のブレード・サーバーのベイ番号関連付け
- 使いやすさ、セキュリティー、安定性の改善:
 - (HMC ディスカバリーを介した) Power 8 システムのアクセス・キー更新有効期限のディ

スカバリー

- その他の内部の更新と修正

TSA 1.7.2.1

2016年3月7日

日

- 潜在的なセキュリティー問題を修正するために glibc パッケージを更新
- 送信パフォーマンスの更新

TSA 1.7.2.0

2016年2月5日

- 以下についてハードウェア・インベントリー・ディスカバリーを拡張しました。
 - IBM TS3100 および TS3200 テープ・ライブラリー
 - 資格情報が不要な場合/定義されていない場合の IBM 3584 テープ・ライブラリー。
 - VMware vCenter および ESXi を介した HP、Dell、および Lenovo x86 サーバー・インベントリーの詳細のディスカバリーの改善
 - VMware vCenter を介した非クラスター VMware ESXi サーバーのディスカバリー。
 - Juniper: OS 名、OS バージョン、メモリー・サイズのインベントリー・ディスカバリーを改善
 - IBM DS3xxx および DS5xxx: フレームとエンクロージャーのディスカバリーの改善
 - HP Integrity および HP 9000 サーバー: iLO を介した要約レベルのインベントリー情報
- セキュリティーと安定性の改善:
 - ユーザーは新しいオプションから、TCP/IP 構成に密接に関連する以下のシステム・ファイルを編集できます。
 - /etc/resolv.conf: ユーザーはこのファイルを使用して、ローカル・ネットワーク・リソースの名前解決設定を編集できます。これは、ホストの短縮名から複数のドメインを解決するのに役立ちます。
 - /etc/hosts: このファイルには、既知のネットワーク・リソースの名前と IP アドレスのマップが含まれます。したがって、ドメイン・ネーム・サーバーの必要なしに名前をローカルで解決できます。
 - ユーザーはパスワード有効期限を 90 日未満になるように定義することで、クライアントの会社のセキュリティー・ディレクティブと整合させることができます。
 - 特に大規模環境での安定性の向上: ユーザーは TSA が最適なパフォーマンスで稼働し続けられるように自動システム保守をスケジュールできます。この機能は (ディスカバリーと送信の既存スケジュールと競合しないように) デフォルトではオンになっていませんが、ユーザーが「管理」メニューでシステム保守のスケジュールを構成することを強くお勧めします。

- ネットワークがダウンした場合の自動送信再試行（6 時間以内）
- スケーラビリティを向上させるためにディスカバリー・プロセスの一部としてデータベース保守を実装
- その他の内部の更新と修正
- 使いやすさの向上：
 - スケジューリングの柔軟性の向上：ユーザーは自動で行われるディスカバリー、送信、データベース・クリーンアップを、曜日だけでなく月の特定の日でも設定できるようになりました。
 - 「資料」メニューに「TSA 更新履歴」が含まれるようになりました。
 - 圧縮テクノロジーを更新。送信ファイルのサイズと帯域幅使用量が大幅に小さくなりました。
 - TSA の初期インストールでのデフォルトの TCP/IP 設定を「DHCP」ではなく「静的」に変更
 - 許可ユーザーは IBM Fix Central から TSA 仮想イメージをダウンロードできます

TSA 1.7.1.0

2015 年 9 月 10 日

- VMware ESXi ハイパーバイザーが存在する Dell x86 および HP x86 サーバーへの TSA 仮想アプライアンスのインストールのサポート
- 以下のデバイスについてのハードウェア・インベントリ・ディスカバリー -
 - IBM Tape Library モデル 3576
 - Qlogic スイッチ
 - 統合管理モジュール（IMM/IMM2）を介した System X および BladeCenter サーバー
 - VMware、Windows、および Linux が稼働している x86 ホストのファイバー・チャネル・ホスト・バス・アダプター（HBA）情報
- IBM Power Systems の拡張ドロワーのディスカバリーを改善
- ユーザー・インターフェース：インベントリ・クリーンアップ・サイクル時に削除されたデバイスのインベントリ情報を表示するビューを追加
- 内部の更新と修正

TSA 1.7.0.0

2015 年 7 月

15 日

- セキュリティの向上。*接続の変更が必要です。以下の詳細を参照してください。*
- HMC を介した Power Systems 拡張ドロワーのディスカバリーを改善
- IBM FlashSystems 820 および V820 のインベントリ・ディスカバリー
- HP ストレージのインベントリ・ディスカバリー
- FlexSystem Manager（FSM）を介した IBM PureFlex System のハードウェア・インベント

リー・ディスカバリー

- IBM FlashSystem のファームウェア推奨
- csv ファイルを介した事前定義のスコープ・セットとデバイスのバルク・インポート
- TSA ユーザー・インターフェースでのインベントリ要約レポート内の詳細を改善
- SNMPv3 資格情報タイプの新規テスト機能
- 送信パフォーマンスの向上
- UI の機能を改善
- IP スコープが 400 エンドポイントを超える場合のガイダンス
- 内部アプライアンスの更新と修正
- Web ブラウザーの更新、および Google Chrome のサポート

技術情報： IBM サポートへの接続の更新のために必要なアクション

- **TLS v1.2 セキュリティーの強化：**
 - TSA v1.7.0.0 には、ここ数カ月間のお客様のフィードバックに基づいた有用な機能拡張と新機能が含まれています。1 つの重要な機能拡張は、IBM サポート・インフラストラクチャーへの送信パスの改善です。TSA v1.7.0.0 以降では、電子サポートに IBM の新しいサーバー環境が活用されるようになりました。これにより、セキュリティが強化され、他のパフォーマンスも向上します。
- **これらの機能拡張のハイライトとして、以下が挙げられます。**
 - セキュリティーの向上 - TLS 1.2 プロトコル (SSLv3 は使用不可) および SHA-256 ハッシュの 2048 ビット強度 RSA 証明書鍵をサポートするようになり、SHA-2 暗号スイートを使用できるようになりました。
 - クライアント・ネットワーク構成を簡素化 - これまでの IBM サポートのインフラストラクチャーに比べ、TSA からのアウトバウンド接続に必要な IP アドレスの数が減ります。現在の必要 IP 数は 13 ですが、これがたったの 3 つになります。
 - アベイラビリティーの向上 - この環境は、単一のホスト名でロード・バランシングされるいくつかの物理マシンで構成されたサーバー・クラスターから成っているので、以前よりも優れたアベイラビリティーとパフォーマンスを提供します。

TSA ユーザーが新しいサーバー環境を使用するためには、接続構成を明示的に変更する必要があります。IBM サポートのこの新しい IT 環境は、既存のお客様の互換性と移行を可能にするために、一定の期間、レガシーの IT 環境と共存します。

TSA ユーザーに必要なアクション

- Technical Support Appliance バージョン 1.7.0.0 以降では、IBM への接続時にこの新しいインフラストラクチャーを使用します。IBM サポートの新しいサーバーに接続してそれらの機能拡張を利用するには、以下のアクションを実行する必要があります。

- 新しいサーバーへのアウトバウンド接続を許可するようにネットワーク・ファイアウォールを変更してください -

ホスト名:	esupport.ibm.com
IP アドレス	ポート
129.42.54.189	443 および 80
129.42.56.189	443 および 80
129.42.60.189	443 および 80

- 「IBM への接続」パネルからテスト接続を実行して、正常に接続することを確認します。接続の成功を示す状況メッセージが表示されます。(下記の『接続状況の確認』を参照)
- TSA は、esupport.ibm.com への接続に成功したことを一度検出すると、レガシーのサーバーを通しては IBM に接続しなくなります。すべてのタイプの TSA トランザクションが、新しいサーバーを通して処理されるようになります。(TSA で使用されなくなる、レガシーの IP アドレスのリストについては、「TSA セットアップ・ガイド」を参照)
- 上記のアクションが実行されるまでは、TSA はフェイルオーバー状態で引き続きレガシーのサーバー接続を通して IBM に接続します。以下の問題が発生する可能性があります。
 - 「要約」パネルの「IBM への接続」に黄色の警告アイコンが表示されます。下記の『接続状況の確認』を参照してください。
 - IBM に接続する TSA 操作が著しく遅くなる場合があります (例えば、更新があるかどうかの確認やインベントリ送信など)。TSA はまず、新しい esupport.ibm.com インフラストラクチャーに接続しようとします。こうした接続に失敗した場合、TSA はレガシーの IBM サポート・サーバーにフェイルオーバーします。プロキシを介して IBM に接続する場合に、パフォーマンスの低下がいつそう顕著になる可能性があります。

追加情報：接続状況の確認

- 「要約」パネルの「IBM への接続」セクションに、新しい esupport.ibm.com インフラストラクチャーへの接続に成功したことを判断するための標識が表示されます。
 - 新しいサーバー環境への接続に成功した場合、「要約」パネル上の状況は緑色になります。
 - 部分的に接続に成功している (新しいサーバーに対応するネットワーク・ルールはまだ構成されていない) 状態では、「IBM への接続」状況が黄色で表示されます。黄色は、レガシーのサーバーへのフェイルオーバー接続を表します。
 - 新規またはレガシーの IBM サーバー環境のいずれにも接続できない場合、「IBM への接続」状況が赤で表示されます。そうなった場合は、ご使用のネットワークで新しい IBM サポートの IP アドレスへのアウトバウンド接続が許可されていることを確認してから、接続を再試行してください。

- 以下のデバイスについてのインベントリー・ディスカバリー -
 - EMC CLARiion
 - VNX
 - VMAX ストレージ
- Chassis Management Module (CMM) を介した IBM PureFlex System のシャーシとコンピュータ・ノードのハードウェア・インベントリー・ディスカバリー
- Hardware Management Console (HMC) によって管理される IBM Power Systems のインベントリー・ディスカバリーを改善
- 内部アプライアンスの更新と修正

TSA 1.6.2

2015 年 1 月 29

日

- 以下のデバイスのディスカバリーが改善されました -
 - Brocade
 - IBM Integrated Virtualization Manager
 - Windows 2008 (R2 以降)
 - DS8000 拡張フレーム
 - IBM FlashSystem 840 および V840
 - SAN ボリューム・コントローラー
 - Power Systems HMC
 - Solaris ゾーン
 - 一般 x86 システム
- TSA コード更新処理を強化
- バックアップと SNMP 資格情報テストのためのユーザー・インターフェースを改善
- 資料と構成ガイドの組み込み
- セキュリティーの向上: ブラウザー接続での TLS サポートを使用可能化 (およびレガシーの SSL サポートを使用不可化)
- ユーザー・インターフェースへのアクセシビリティーの改善
- 内部セキュリティーの強化、更新、修正

TSA 1.6.1 Update 1

2014 年 10 月 22

日

- Bash でのセキュリティー欠陥を修正するためのパッチ

TSA 1.6.1

2014 年 9 月 10 日

- 以下に対するディスカバリー・サポートの拡張 -
 - Brocade

- Power HMC
- IBMi
- V7000 デバイス
- 内部アプライアンスの更新と修正

TSA 1.6.0

2014 年 6 月 27

日

- NetApp、N シリーズ、V7000、V7000 Unified、および BNT デバイスのディスクバリーを改善するためのサポートを追加
- XIV、DS6K および DS8K、ESXI、vCenter、SVC/V7000 のリアルタイム資格情報テストを拡張
- SVC/V7000 デバイスの PPK 鍵から SSH 鍵への自動変換と鍵の妥当性検査
- 管理対象デバイスのファームウェア・レベルを取得できるように Power Systems Hardware Management Console のディスクバリーを改善
- 資格情報の問題のデバッグに使用できる成功/失敗履歴
- 内部セキュリティー強化
- ユーザー・インターフェースへのアクセシビリティーの改善
- 内部アプライアンスの更新と修正

TSA 1.5.3

2014 年 4 月 11

日

- インベントリー収集のハングを回避するために IBM 製デバイスのパフォーマンスを改善
- 内部アプライアンスの更新と修正

TSA 1.5.2

2014 年 3 月 28

日

- System x サーバーの収集パフォーマンスの向上
- Solaris のデータ収集を改善

TSA 1.5.1 Update 1

2014 年 3 月 14

日

- VIOS ディスカバリーの強化
- システム収集を増やすためのディスクバリーの改良

TSA 1.5.1

2014 年 2 月 14 日

- インベントリー処理の強化
- IBM Power Systems Hardware Management Console を使用したディスクバリーからのデバ

イスの詳細を改善

- 追加のストレージ・ハードウェアのサポートとレポート作成のための機能拡張
- 内部アプライアンスの更新と修正
- 安定性の向上

TSA 1.5.0

2013 年 12 月 6 日

- ユーザー・インターフェースのナビゲーションの改善
- Windows Management Instrumentation (WMI) のゲートウェイおよびアンカーのサポートの削除
- ディスカバーされたインベントリーは、特定の期間が経過し、再ディスカバーされていなければ、ディスカバリー履歴から削除可能
- ディスカバーされたインベントリーの履歴に次のディスカバリーからの情報のみが存在するように、ディスカバーされたインベントリーの履歴をリセット
- スコープ・セット間でスコープを移動する機能
- ロギングとデバッグの機能拡張
- 資格情報またはパスワードの作成後または更新後の資格情報検証
- ディスカバリーからのデバイスの詳細を改善
- VMware vCenter Server インスタンスをディスカバーするためのサポートを追加
- IBM Power Systems Hardware Management Console (HMC) をディスカバーするためのサポートを追加
- 内部アプライアンス・データベースの更新と修正